

2005年6月15日

ニューヨーク日本人学校 PTA 会長 足立高德

GJS の生徒数と収支について

先日、前審議会事務局長のお話を伺う機会があり、PTA 有志の方と共に、4 時間以上に渡って過去約 10 年分の審議会財務表を前に、今まで私たちが知ることのなかった審議会の数々の真相を教えて頂くことができました。この方は 5 年間勤められている松村現事務局長の前任の方で、GJS 創立当時を含む 10 年間、事務局長として学校を管理されていた方です。

最初私たちが現状をご報告したときの前事務局長の疑問は、「審議会には十分なお金があるはずで、わずか 5 年でどうして赤字になるのか?」「GJS はもともと 200 人の生徒でもやっつけられる財務体質だったはずで」というものでした。

たしかに審議会自体は現在もまだ 470 万ドルの現金（過去の黒字時代の残高等）を持っているので、前事務局長の最初の疑問は説明できます。しかし 2 番目の疑問は、審議会が述べられている「GJS は生徒が減少しているから赤字になった」という主張とは相容れないものです。

以下は、これについて私たちが前事務局長から学んだ事実です。

- 減価償却費の謎

先週金曜日に配布させていただいた「追加配布資料に対する質問への回答」の資料の中でご説明したとおり、現在約 40 万ドルの赤字を出しているとされる審議会本体の収支内訳は大体以下のようになっています：

収入	金利寄付金	\$280,000	
	補習校奨学金	\$10,000	
	家賃収入	\$500,000	\$440,000(GJS 校舎) + \$60,000(その他家賃)
	キャンプ代	\$20,000	
支出	人件費	\$310,000	
	学校・事務経費	\$330,000	
	建物修理維持	\$230,000	GJS の校舎
	建物減価償却	\$350,000	GJS の校舎

この中の建物減価償却費は、実際の現金支出（キャッシュアウト）を伴わないものです。つまりこれは、（購入後）40 年後に建物が老朽化して建て替えるときのための準備金として毎年積み立てている金額で、それまでは審議会の銀行口座にそのまま貯まっていっているお金です。しかし、歴史的建造物である GJS の建物群を建て替えるというのは、現実的なことなのでしょうか？建物の細かな修理維持は当然必要ですが、これはすでに上の建築修理維持費を見ていただければわかるように 23 万ドルを計上しています。

実際、前事務局長のお話では、97 年まではこの科目は計上していなかったのだが、当時 GJS 本体が十分な黒字であったので、帳簿の上でだけ翌年から導入した、とのことでした。もちろん減価償却という新しい支出を審議会本体の帳簿に加えるからには、それに見合った収入も同じ帳簿に加えないと、審議会本体が赤字になってしまいます。

そこで帳簿の収入の部に導入されたのが、校舎本体の「家賃」収入の 44 万ドルでした（上の表をご参照下さい）。このお金は、GJS の土地校舎購入時に必要だった 800 万ドルを、外務省が毎年分割して補填してくださっているもので、もともとは GJS 本体の収入としてだけ計上されていました。ところが 98 年以降は、この 44 万ドルを GJS 本体から審議会本体への「家賃」という形で帳簿上付け替え、先の減価償却費による審議会本体の赤字化を防ぐよう細工することになったわけです。

こうした帳簿操作が、米国の会計監査上合法かということについて、経理事務所（現在審議会が

使っているところと同じ)に問い合わせたところ、米国では unusual であるが、(審議会)内部の帳簿操作であるから問題ない、という回答を得たということでした。

- 作られた赤字

経理上合法であるとしても、この帳簿操作によって、GJS は、44 万ドルの収入を審議会本体に渡すことになってしまったのです。前事務局長のお話では、これは GJS が余裕があるときに取った措置であるから、経営が苦しい現在は、帳簿上にだけ存在する架空の減価償却費をなくし、もとの帳簿に戻すべきだ、ということでした。このお話に従うと、金曜日の PTA 資料に載せた今年度の審議会の赤字内訳は次のように変化します：

	現帳簿の金額	修正後の帳簿の金額
審議会本体	-\$404,000 + \$350,000 - \$440,000	→ -\$494,000
文化交流センター	-\$50,000	
GJS(JSNY)	-\$350,000 + \$440,000	→ \$90,000 黒字！！
NY 補習校	-\$56,000	
NJ 補習校	-\$25,000	
審議会合計	-\$885,000 + \$350,000	→ -\$535,000

つまり GJS の赤字は、経理操作で作られた人工的な赤字だったのです。そしてこれならば、前事務局長がおっしゃる「GJS は 200 人の生徒でもやっつけていける財務体質」というのも合点がいきます。

審議会は、「売却・リースバック」を議決したとき、この事実を知らなかったのでしょうか？あるいは知っていても、審議会本体等の赤字を補填するために、現在黒字である GJS を売却すると決めたのでしょうか？

いずれにしても、これは大変大きな問題で、こうした初手からの事実誤認で、現在の混乱を招いた坂本審議会会長と理事会には、はっきりとした責任を取っていただかなくてはならないと思います。また理事のみなさんがこの事実を知らなかったのであれば、それを知らせなかった現事務局長の罪は極めて重いのではないのでしょうか？

- 審議会の赤字解消策と GJS

このように GJS 単体では黒字であることがわかりましたので、もはや審議会の GJS 売却案には何の根拠もありません。また金曜日の PTA 資料で検討したように、固定費としての審議会本体の赤字を考慮したとしても、GJS の授業料の値上げが必要ないことはすぐにわかります。

しかし、審議会そのものは、減価償却費分は減ったとしても、あいかわらず 50 万ドル以上の赤字を残しています。これを解決するために最初にやるべきことはもちろん、赤字運営に陥り放置した責任者の減給、解雇を含む審議会本体の支出の圧縮でしょう。そしてその上で、収入を増やす方策として、生徒増加策を考えるしかありません。

たとえば今年 3 月末には、某幼稚園が GJS 校舎の部分賃貸を打診してこられていました。そのときは価格の面で折り合いがつかなかったようですが、仮にお貸しできるならば、賃貸料が直接収入となるだけでなく、つねに同じキャンパスで楽しく学習する GJS の子供たちを見ていれば、そこを卒園する園児たちの多くがそのまま GJS に入学するようになるのではないのでしょうか？

この例が示すように、審議会の資産を見渡してみても、一番生徒増加策の余地を残している学校は GJS であるように思えます。このように、赤字対策にもっとも貢献できる可能性のある GJS を売却するという事は、その後赤字から抜け出せなくなるという意味で、審議会の自殺行為と言えるのではないのでしょうか？

(ご意見、ご提案、ご質問は、PTA 常任委員まで、随時お寄せいただくよう、よろしく願いいたします。)